インタビュー

ドリームチェイサー

全体を俯瞰し中小整備業に助言

汲川（くみかわ）　剛（たけし）社長

ドリームチェイサー（東京都中央区）は昨年11月の創業だ。大手カー用品店、コンサルティング会社で培った経験やノウハウをもとに、中小・零細（小規模）企業が大半の自動車整備業界で、助成金の受給や組織力を高めるためのコンサルティングなどを手がける。「クルマ屋さんが使いやすい助成金を活用しながら全体を俯瞰したアドバイス」に力を入れる考えだ。

―立ち上げの経緯は

「これまでに在籍してきたコンサルティング会社では、たくさんの整備事業者や販売店のお役立ちになるような支援をしてきたつもりだ。多くの企業が黒字化して利益を出していくことに喜びを感じる一方で、フランチャイズのなかには救えなかった企業もあった。もちろん、時間と労力がすべて使えないことは承知しているが、残念ながら廃業を選択する企業もあった。これは例え話だが、傷ついて血が出ている会社だからこそ、早く止血して応急処置をする必要がある。『コンサル会社は先行投資をする必要がある』と感じていた」

―中小・零細企業向けに総合経営コンサルティングを始めた

「国内の整備工場の大半は中小・零細企業で、多くは10人以下の企業規模だ。当社ではこうした規模の会社を対象に、助成金の受給支援や経営相談、経営診断、組織力診断、財務診断などを実施する。具体的に言うと、メカニックが3人、社長が営業を担当して事務が2人いるような6人以下の整備工場が、7、8人規模の事業体を目指す形を作りたい。『家業』ではなく『企業』にしていくための支援事業だ。お客様と仕事を現状よりも増やす取り組みをするとともに、事務所やトイレ、看板の修繕など先行投資をする必要もある。これらを予算化して、中小零細の整備工場や販売店の発展につなげていきたい」

「各社が自社の課題を認識し、腑に落ちて実際に動いてもらうことが重要だ。そのためには、その会社に合った手順でコンサルティングを進める必要がある。整備工場で働く社員のなかには、将来に明るい希望を描けなかったり、不安に感じている人も一定数いた。夢や目標、前向きな人がたくさんいれば業界の発展にもつながるはずだ。そのためのコンサルティングだと考えている」

―助成金診断が好評だ

「助成金というものは、求める人が自ら調べなければ、分かりやすい案内や提案は誰からも来ない。そこで当社では、クルマ屋さんが使いやすそうな助成金をピックアップして案内している。とくに①新たに人を採用するためのもの②社内の人材を育成し、成長を促すもの③就業規則や環境の改善により労働環境を整えるもの―が中心になる。助成金は種類も多いし、毎年少しずつ変わったり、昨年あったものが今年はなかったりする。だからこそ、当社では助成金に詳しい社会保険労務士と業務提携し、各社に最適なものや組み合わせを提案していく。直近では門型洗車機を導入することで生産性を高め、スタッフの賃金を上げることを目的とした『人材確保等支援助成金』を使った企業がいた。社員の生活を豊かにするための助成金もある。まずは相談してほしい」

（太田　千恵）

使いやすそうな助成金を案内